第28回院内コンサートの様子

十和田 英子様、鈴木 幸様をお迎えし、2025年3月22日(土)に第28回院内コンサートを開催しました。

湘南鎌倉総合病院♪院内コンサート

ふたりの手が奏でる春の訪れ♪
～ピアノ連弾を楽しむコンサート～

2025年 3月22日（土）
15:00～15:30

ピアノ
十和田　英子
鈴 木　　幸

Program

- セシル・シャミナード：
  ロマンティックな小品集 Op.55
- ジョージ・ガーシュイン：
  ３つの前奏曲 I, II, Ⅲ
- 佐々木 邦夫：
  オーシャンビート〈大洋の鼓動〉
- カミーユ・サン＝サーンス：
  白 鳥

出演者ご紹介

十和田　英子　Eiko Eva Towada

聖心インターナショナルスクールを卒業後、米・ボストンのニューイングランド音楽院ピアノ演奏科を卒業。在学中、アナーズ・コンペティションのファイナリストとしてジョーダン・ホールで演奏。米・ピッツバーグのカーネギーメロン大学音楽学部でダルクローズリトミック（音楽教育）を学ぶ。「第21回万里の長城杯国際音楽コンクールアンサンブル部門」ピアノデュオで第三位受賞。大森智子、ジェイコブ・マクシム、パトリシア・ザンダー、ユージン・レイナー（室内楽）、マルタ・サンチェズ（ダルクローズ・リトミック）の各氏に師事。帰国後、後進の指導をしつつ演奏活動を展開。

鈴木　幸　Sachi Suzuki

桐朋女子高校（音楽科）を経て桐朋学園大学ピアノ科卒業。カナダで行われたJISA音楽祭への参加をきっかけに留学を決意。アメリカへ渡り、ボストンのニューイングランド音楽院大学院にてピアノ演奏学科修士課程とディプロマ課程を修了。在学中より様々な楽器の伴奏を行い、コントラバス、ヴァイオリン、フルートの教授からはクラスの伴奏員を依頼される。藤澤弥生、三浦みどり、ランダール・ホッジキンソン（ピアノ）、ジョン・ハイス、ユージン・レイナー（室内楽）、イルマ・ヴァエシヨ（伴奏法）の各氏に師事。

現在ソロ、室内楽、伴奏の演奏活動を展開する傍ら後進の指導も行う。保育園では15年以上に渡り外部講師として、音楽知育のプログラムを提供しており、2歳～5歳までの各担当クラスでは子供たちにも親しまれる。

主催：湘南鎌倉総合病院・院内コンサート実行委員会

楽曲解説

セシル・シャミナード(1857-1944)
ロマンティックな小品集 Op.55

1.春　2.駕籠　3.アラビアの牧歌
4.秋のセレナード　5.ヒンドゥ教徒の踊り　6.リゴードン

セシル・シャミナードはフランスのピアニスト•作曲家であり、演奏活動と作品出版によって経済的に自立した初めての女性と言われています。パリデビューに次いで1892年にイギリスでデビューすると、その作品は人気を集め、ヴィクトリア女王から招かれて何度も御前演奏をしたり、1908年に初めてアメリカを訪れた際にはセオドア・ルーズヴェルト大統領からホワイトハウスに招かれて演奏するほど大流行しました。全米各地に200以上もの"シャミナードクラブ"が結成されたそうです。
1913年にはフランスの名誉勲章であるレジオン・ドヌール勲章を授与され、女性として初の大きな栄誉を受賞しました。

『6つのロマンティックな小品』はシャミナードが作曲した２つのピアノ4手(連弾)の為の作品のうちの1つで、1890年頃に出版されました。この6曲が「ロマンティック」と呼ばれる理由は、フランスのロマン主義時代に非常に人気があった、自然や異国情緒といったテーマやイメージに触発された作品「ピエス・ド・ジャンル（pièce de genre）」を代表するものであるからです。
この小品に含まれる春と秋の季節や、アラビアとヒンドゥの異国情緒などが当時「女性らしい」とみなされた構築性よりも叙情性の追究や繊細さ、柔和さや優雅さ、しめやかさなどの特徴をもって表現されています。
後にシャミナードは自ら「駕籠」「アラビアの牧歌」「秋のセレナード」をオーケストラ用にも編曲しました。

ジョージ・ガーシュイン(1898-1937)
3つの前奏曲　I, II, III

ユダヤ人移民の両親のもと、アメリカ、ニューヨークに生まれたジョージ•ガーシュイン。
その生涯は38年という短さでしたが、僅か20年ほどの活動期間に数多くの作品を残しました。
その多くはミュージカルやオペラなどを含む500曲以上の歌曲ですが、ポピュラー、ジャズ、クラシックを融合させた器楽曲も有名です。
クラシックとして代表的な作品でもある管弦楽とピアノのための"ラプソディ•イン•ブルー"の大成功をおさめた後、この"ピアノのためのプレリュード"は発表されました。
1926年12月、ニューヨーク市内の『ホテル•ルーズベルト』でのコンサートでガーシュイン本人の演奏により5曲ほどのプレリュードが演奏されたそうですが、翌年楽譜として出版されたのが現在の3つのプレリュードとなります。
ジャズ的なリズムとハーモニー、ブルースのようなメロディーを取り合わせ、20世紀アメリカ音楽の古典としても有名な曲になり、ガーシュインの遺した数少ないピアノ曲の代表ともいえるでしょう。

佐々木 邦雄　(1955～)
オーシャンビート〈大洋の鼓動〉

このタイトル(Ocean Beat)と曲想は、巨大なエネルギーをもつ大海原の波、逆に静まって鏡のような海面とその下に広がる大きな世界、をイメージしたとのこと。
当時、音大進学を決意した高校生の男子生徒たちを応援する気持ちと、人間もこの〈大洋〉のような、大きな愛と勇気に満ち溢れた人生を歩んで行こう！という願いとを、この連弾曲に込めて作られたそうで、佐々木邦雄氏の代表作と言われています。

カミーユ・サン＝サーンス(1835～1921)
白鳥

「白鳥」は、サン＝サーンスが1886年に作曲した全14曲から成る組曲「動物の謝肉祭」の第13曲目の曲です。この組曲は当時のチェリスト、シャルル・ルブークが催すプライベートな夜会のために作曲されました。組曲全体は非公開で2度ほど演奏されましたが、その後サン=サーンス自身がプライベートな演奏目的で作曲したいきさつや他の作曲家の楽曲をパロディにして風刺的に用いていることなどの理由により死去するまで組曲の出版・演奏を禁じてしまいます。
しかし唯一、「白鳥」だけは純然たるオリジナル曲であった為、生前より出版されていました。
組曲全曲の出版はサン=サーンスの没後1922年になされ、パリの伝統あるオーケストラ、コンセールコロンヌによる再演で広く知られるようになりました。
「白鳥」はオーケストラ版でもチェロのソロとなることがありますが、オリジナルはチェロと2台のピアノのための作品です。